

第10回 日常診療経験交流会へご参加を！

口内・腸内細菌の意外なお仕事
健康長寿への道11月30日
開催実行委員長
井上美佐氏

医科協会と合同で2年に一度開催されている日常診療経験交流会は今回で10回目となる。記念講演の魅力や多くの会員参加を井上美佐実行委員長(大阪府保険医協会副理事長)が呼びかけている。

2年に一度の日常診療 健康長寿への道」です。経験交流会の時期が近づいてまいりました。今年のテーマは、「口内・腸内細菌の意外なお仕事」。

言葉です。学生時代に微生物学などで学んだと思いますが、「フローラ」とは「常在細菌叢」のことです。ヒトの外部との境界、出入り口にはそれぞれ部位によって特徴的な常在菌が住み着いていて、外部からの病原性細菌などが体内に入るのを防いでくれているのです。いかがですか？

思い出しましたか？ フローラは皮膚、口腔、咽頭、上気道、胃、腸管、膈、尿道などに形成されますが、この度は消化管の出入り口、口腔

内と腸管内のフローラにスポットを当てます。私は昔からフローラという言葉を知り、口腔内や腸管内で善玉菌と呼ばれる細菌たちがチャンチャンバラバラと外から入ってくる病原菌を押し返しているイメージが浮かんできて、エールを送りたくなるんです。

消化管のフローラの乱れは口内炎や腸炎を引き起こすだけでなく、糖尿病や肥満、免疫の病、癌などに関係していることも研究されてきています。さて、口腔内や腸管

内の兵士たちはどんなグッツョフを行っているか。私たちは彼ら(細菌たち)のためにどんな手助けをしてあげられるのでしょうか。どうでしょう、ワクワクしませんか？是非ともシンポジウムを聴きにきてください。

また、午前中は会員の先生方の日頃の臨床での工夫や成果を発表して頂きます。日頃のお忙しい診療の間にまとめられた皆さんの発表には、毎回うーんと唸らせる素晴らしいものがたくさんあります。これもとても楽しみです。会員及び職員の皆さん、11月30日、大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)にご参集ください！

三島地区

チェアサイドで活かす
口腔機能評価

小原由紀氏が講演

師、歯科衛生士ら51人が参加した。

口腔機能の低下は食事や社会参加の妨げとなり、健康寿命を縮める要因となる。講演では、オーラルフレイルから口腔機能低下症へ進行する過程や、その後の低栄養・フレイル・サルコペニアとの関連について解説。さらに、歯科診療所におけるリスクの気づき方、精密検査の基礎知識、チェアサイドでの管理方法が紹介された。

三島地区は、宮城高等歯科衛生士学院教務主任の小原由紀氏を講師に迎えて、「口腔機能低下症をどう診る? どう測る?」と歯科診療所における気づきと対応」をテーマにZoom講習会を7月27日に開催した。歯科医

8月3日保団連夏季セミナー特別報告より概要紹介

公的支援と窓口免除求め

石川県保険医協会 山本司理事

保団連が8月2・3日、東京都内で開催した夏季セミナーで石川県保険医協会の山本司理事(歯科医師)が特別報告し、能登の歯科の現状を発言した。概要を紹介する。

歯科固有の問題

災害時も歯科固有の問題がある。医科は、災害発生から数日で早く再開できた医療機関もあったが、歯科は再開に時間がかかった。とにかく水がなければ診療ができない。今回、下水道への被害が甚大で、一部の地域では現在も水が使えない状態が続いている。

公立病院に歯科がない

歯科の復旧が遅れば

患者にとっては歯科医療難民という事態になる。本来なら公的病院歯科の出番だが、今回特に被害が大きかった奥能登4市町の公立病院には歯科がなかった。珠洲市総合病院は、今年5月に歯科口腔外科を開設し、週3日1日15人限定で診療を開始したが、発災後しばらくは歯科医師会が健診車でいった臨時診療所や部分的に再開した診療所に頼らざるを得なかった。現在、奥能登の公立4病院を統合する計画が進め

られているが、歯科がどうなってしまうのかは不透明だ。診療を再開しようと考えたときに、自身も高齢で後継ぎもいない。新たに多額の借金をして、診療所を立て直すのは現実的ではない。実際に閉院した医療機関も複数あり、震災以降ずっと休診中の診療所もある。珠洲市では、もともとあった5つの歯科診療所のうち1件が閉院、1件が休診中、3件が再開しているが診療前同様の診療体制に戻っている診療所は一つもない。

歯科需要があるが負担が重い

高齢で後継ぎもいない

今年、輪島市、珠洲市で診療再開に踏み切った会員に聞くと、再開した際には、地域の患者さんはまさに待ち構えていたという。歯科医療の需要があるにもかかわらず、受診できない状況が続いていた。

超えた。「生活費を切り詰めて医療費に回す」63・7%「受診回数を減らす」43・6%「受診せずに我慢する」27・6%の回答が寄せられた。今後、医療費免除の終了にともなう受診抑制は必至である。医療費免除は、被災者にとってまさに命綱。石川協会では、免除の再開に向けて運動を継続している。

8月25日付
機関紙に同封

被災地者生活再建支援への署名にご協力お願いします。

わたしたちの運動で
拡充を実現

被災地者生活再建支援法(以下「再建法」)は、被災地者の生活再建を支援するため、被災地者生活再建支援基金(以下「基金」)を設け、被災地者の生活再建に活用することを目的として制定された。基金の拡充は、被災地者の生活再建に不可欠である。本会では、基金の拡充を実現するために、関係機関と連携し、運動を展開している。

基金の拡充状況	拡充額	拡充率
国	100億円	100%
道	50億円	50%
市町村	20億円	20%
合計	170億円	100%

基金の拡充は、被災地者の生活再建に不可欠である。本会では、基金の拡充を実現するために、関係機関と連携し、運動を展開している。

4
医院の
雇用対策を
考える

先の見えない人手不足にどう立ち向かうべきか。前編から引き続き、bloom総合事務所代表の加藤深雪特定社会保険労務士にお話を伺った。

なぜ辞めてしまうのか

「今回は採用についてお話しただけでしたが、今回は定着から退職希望者への対応についてお聞きしたいと思っています。」

「看護師白書2022年度版(株式会社マイナビ調査)」によると、退職を考え始めた理由の1位は「給与条件」34%、続いて「仕事内容ややりがい」33%、「人間関係」30%となっています。2021年の調査では人間関係がトップでしたが、2022年は物価や賃金相場が上昇し、給与面へ意識が向いたのだと思われまます。事業者側としては、これら上位の項目が退職理由にならないようにしていけば良いと導き出せるわけです。

従業員定着の「仕組み」作り

ポイントには、「ないと満足度を高める要因」と「あると満足度を高める要因」は別ということ。アメリカの心理学者であるハーズバーグの動機付け・衛生理論では「ないと不満足度を高める要因」「あると満足度を高める要因」を労働条件や給与などの条件面、「あると満足度を高める要因」を自己実現や自己有用感を与えることとしています。この二つの要因はいわば車の両輪で、一方がよい状態でも他方が悪いと上手くいきません。例えば、給料は高めに設定して休みも多い、また職場環境も良好なのに退職者が相次ぐ場合は、不満はないが何か満足感に欠ける状況

が考えられるというわけです。研修や面談で満足感向上を

満足感を高めるには自己実現や自己有用感を与えるということです。具体的にどのような方策があるのでしょうか。

一つ目は、職員研修の実施です。今日的な課題として、カスハラ対応研修やアンガーマネジメント研修などがよいでしょう。例えば患者の迷惑行為には一人では対応しないのが鉄則ですが、研修を皆で受けることで、一人では対応しない、一人に任せないという意識を全体で共有でき、従業員同士の連携も期待できます。症例検討会もコミュニケーションが活性化し、チームワークも高まるのでおすすめです。二つ目は、人事評価を兼ねた院長面談です。全員と面談するのは大変ではありますが、単に従業員に目標を出させて面談するだけでも良いので、最低1人30分ほどは行いたいのです。

実際やってみると、普段は気が付かなかったような人物の特徴や隠れた不満も聞けたりします。制度としての人事評価については、あまり最初から厳格に設計すると時間も費用も要してしまうので、最初は協調性や責任感などの情意考課と、自ら設定してもらった目標を年度末に振り返るぐらいから始めれば十分だと思えます。他には、色々な意見を言うガス抜きの場として職員会議を開催するのも良いですね。これには従業員間コミュニケーションの活性化も期待できます。

連載『医院の雇用対策を考える』への感想やご意見はこちら



(つづく)